

1. 寄稿

『学習指導要領改訂とMM教育』

【北海道教育大学附属札幌小学校 教諭 樋渡 剛志】

小学校学習指導要領が平成 29 年 3 月に公示され、平成 32 年度から実施されることになりました。札幌らしい交通環境学習を推進していく上で、札幌市都市交通課と北海道開発技術センター、教育現場が連携をして取り組んできました。平成 23 年度から取り組みを行い、本実践が 27 本目の実践になります。「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、今後も更なる連携体制を築いていきます。

それでは、平成 29 年 8 月 28 日(月)に行われました、札幌らしい交通環境学習フォーラム 2017 での実践を紹介させていただきます。

授業の導入で、「まちの広がりが分かる地図」に「公共交通の路線図」を重ねて提示していききました。

すると、「分かった!」という声と、「よく分からない。」という声が上がりました。何が分かって、何が分からないのかをはっきりさせる場面を作りました。子どもたちは「交通と人口が関係していそうだよ。」と発言し、何に着目しているかという見方ははっきりさせていったのです。

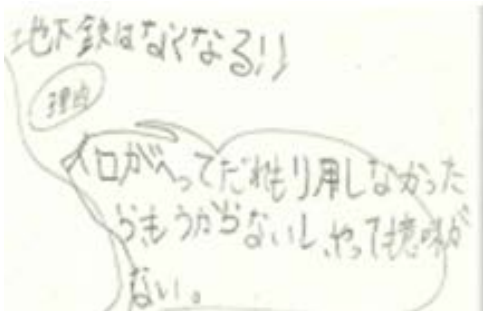
新学習指導要領では、このように、何に

学習展開	教師のかかわり			
<p>前時までに子どもたちは、札幌市の人口・まちの広がり、公共交通、公共施設、生活の道具の変化に着目して調べ、大まかにまとめている。</p> <p>昭和 25 年 (1950) 昭和 49 年 (1974) 平成 29 年 (2017)</p> <p>まちの広がりと公共交通の広がりは、関係があるのかな？</p> <p>関係がありそう！</p> <table border="1"> <tr> <td> <p>人口・まちの広がり</p> <p>昔は中心だけがまちだった。おじいちゃんあまり移動しなかった。人口は 31 万人だよ。人口が増えたら、まちが真ん中より外側に広がっているよ！</p> </td> <td> <p>札幌市が段々広がっていったからだよ。小さいところが中心の外側にできている。人口は 120 万人だよ。</p> </td> <td> <p>中心から離れたところもまちになった。あいの里も畑だったけど、まちになった。人口は 196 万人だよ。</p> </td> </tr> </table> <p>まちが小さかったから、移動しなくてよかったんだよ！</p> <p>交通</p> <p>市電と鉄道だけで十分だったんだよ。オリンピックの時に地下鉄に乗って移動したって！</p> <p>人が住んでいるところに交通が必ず広がっているよ！</p> <p>まちが広がって、速く遠くにも移動できるように公共交通も広がっている！</p> <p>これからどんなまちになってほしいかな？</p> <p>札幌にも問題があったなんて思ってもいなかった。みんなが住みやすいまちになってほしい。</p> <p>交通はますます重要になってきそう。</p> <p>人口が減ると、まちはどうなっていくのかな？札幌市のこれからについて、考えていきたいなあ！</p>	<p>人口・まちの広がり</p> <p>昔は中心だけがまちだった。おじいちゃんあまり移動しなかった。人口は 31 万人だよ。人口が増えたら、まちが真ん中より外側に広がっているよ！</p>	<p>札幌市が段々広がっていったからだよ。小さいところが中心の外側にできている。人口は 120 万人だよ。</p>	<p>中心から離れたところもまちになった。あいの里も畑だったけど、まちになった。人口は 196 万人だよ。</p>	<p>○現在の公共交通の路線図と過去の公共交通の路線図を比較することで、まちの広がりと公共交通の広がりの関係性に目が向くようにする。</p> <p>○「まちの広がりと公共交通の広がりがぴったり関係していそう」という子どもの思いに、「本当に関係しているのかな？」と投げかける。そうすることで、「関係しているよ！だってね…」と見通しをもって取り組む姿を引き出す。</p> <p>○どの視点に着目して変化を捉えているのかを子どもに問い返し明らかにすることで、まちの広がりを多面的に捉え、公共交通の広がりと関連付けて話し合う場を構成する。</p> <p>○まちの広がりと公共交通の広がりを十分に捉えてきた子どもたちに、2060 年の札幌市の人口予測を提示する。人口が、1980 年くらいにまで減る事実に着目させることで、公共交通に目が向くようにする。</p> <p>○人口の減少と交通網の関係に着目させてから「これからの札幌市はどのようになってほしいかな？」と問うことで、未来の札幌市について考える姿を引き出す。</p>
<p>人口・まちの広がり</p> <p>昔は中心だけがまちだった。おじいちゃんあまり移動しなかった。人口は 31 万人だよ。人口が増えたら、まちが真ん中より外側に広がっているよ！</p>	<p>札幌市が段々広がっていったからだよ。小さいところが中心の外側にできている。人口は 120 万人だよ。</p>	<p>中心から離れたところもまちになった。あいの里も畑だったけど、まちになった。人口は 196 万人だよ。</p>		
<p>板書計画</p> <p>まちの広がりと公共交通の広がりは、関係があるのかな？</p> <p>まちが広がっている！</p> <p>人口・まちの広がり</p> <p>31 万人 120 万人 196 万人</p> <p>人口が増えたら、まちが真ん中より外側に！</p> <p>交通</p> <p>市電と鉄道で十分、 オリンピックの時に地下鉄に、 人が住んでいるところに交通が、</p> <p>まちが広がって、速く遠くにも移動できるように公共交通も広がっている。</p>	<p>50 万人減 みんな 52 歳 先生 77 歳</p> <p>人が減るとまちは昔みたいに戻る？ 140 万人</p> <p>お年寄りも増えてくるって聞いたことがあるよ。</p> <p>公共交通が重要になりそう。</p> <p>やっぱり、まちと公共交通は関係しちゃう？！人口が減ると、まちはどうなっていくのかな？</p>			

着目して考えるかという「見方・考え方」を働かせることが大切になると言えます。まさに、本実践では、子どもたちの「見方・考え方」を育む上で重要な実践の一つになるのではないかと考えられます。

その後、学級全体で交流する場面では、「買い物する時に駅がすぐあると便利。」という人口増加による交通の発展に着目する発言や「乗りものができたから、人が増えたんだよ。やっぱり便利なところに住みたいからね。」などと、交通の発展による人口の増加についても考えていきました。交通と人口が相互に関連付くことで、まちの広がりを捉えていることが分かります。

十分にまちの広がりや交通の広がりを関連付けて考えてきた子どもたちに、2060年の人口予想のグラフを提示します。すると、「人が少ない!」「二枚目の地図の時と同じくらいの人口だよ。」などと呟き始めました。教師は、子どもたちのつぶやきを生かして「みんなはどうなっていくと思う?」と問い、ノートに自分の考えを書かせました。再度、人口と交通や人口とまちの広がりやに目を向けさせようと考えたのです。



子どもたちは、左図のように、これまでの学習を生かした見方を使って考えていることが分かります。人口の増加による、交通の発達を関連付けて考えていた子は、自分の考えを強固なものにしていきました。また、交通の発達による人口の増加を考えていた子は、自分の考えを変容させ違う見方・考え方を使って追究して

いきました。

このように、「交通」と「人口」に関連付けて考えられるように資料を提示したり子どもの追究材料にしたりすることで、子どもたちはより実感的に市の様子の移り変わりを捉えられるのではないかと考えました。これからも、未来を担う子どもたちの学びが深いものになるように、札幌市都市交通課と北海道開発技術センター、教育現場がより一層連携していきたいと考えます。

※本寄稿文は、下記URLからファイルとしてダウンロードしていただけます。

http://www.mm-education.jp/magazine/MMedu_maiImaga27.pdf

2. 交通環境学習の取り組み

(1) 交通環境学習開催のお知らせ

- 山口市公共交通委員会は、バスの利用促進、市民のお出かけの手段を増やすため、バスの乗り方、車椅子の乗車体験、路上模擬運行などの公共交通教室（バス乗り方教室）の実施団体を募集している。

<http://www.city.yamaguchi.lg.jp/soshiki/73/2025.html>

- 東京都の小平市では5月19日、地域住民にバスやタクシーなどの公共交通が、やさしく、身近な乗り物であることを改めてPRすること目的として、5月19日に「バスとタクシーのひろば in 小平 2018」を開催する。

https://www.facebook.com/events/371309046704572/?notif_t=events_recurring¬if_id=1524443870296350

(2) 交通環境学習開催報告

- 静岡県のあしたか幼稚園は12月6日、富士急行バスとともに、バスの乗り方教室を実施。バス車両や路線バスの乗り方の説明を受けた。

<http://ashitakay.com/wp/?p=1376>

- 千葉運輸局は1月26日、八街市地域公共交通協議会とともに、八街市立川上小学校4年生50名を対象とした、バスの乗り方・交通バリアフリー教室を実施した。

http://www.tb.mlit.go.jp/kanto/koutuu_seisaku/barrier_free/date/h29/barifuri_180126.pdf

- 千葉県鴨川市は2月27日、田原小学校の3年生と4年生28人を対象に、バスの乗降方法の説明や運賃の支払いや乗車マナーといった乗車体験などを学習する公共交通乗り方教室を開催した。

<http://www.city.kamogawa.lg.jp/ikkrwebBrowse/material/files/group/7/koukyoukoutuuheisei28nenndodai3kai%20siryou1.pdf>

- 和歌山県橋本市は3月3日、市内の公共交通の未来について考えるため、人口減少や少子高齢化社会の市民の足について考える「第20回はしもとCaféミーティング」とコミュニティバスの乗り方教室を同時開催した。

http://www.city.hashimoto.lg.jp/guide/somubu/caffe_somu/1521418696889.html

■埼玉県の日高市はイーグルバスと連携し、3月3日に高萩公民館で開催された、こどもフェスティバルで、バスの乗り方教室を開催。路線バスの乗降方法、路線バスの車内でのマナー、車椅子での乗車体験などを行った。

http://www.city.hidaka.lg.jp/life_procedure/1/3/3241.html

■東京都の東武鉄道は3月26日、運転士、車掌、同館学芸員から電車の利用マナーや電車の仕組みを学ぶ、「東武博物館を貸し切り！電車まるごと勉強会」を開催。

<http://www.tobu-kids.com/news/2018/118/>

3. ニュース/トピック

■MM教育（交通環境学習）にかかわる自治体支援制度について

エコモ財団は、モビリティ・マネジメント教育の普及となるモデル地域作成のため、自治体への支援を実施しています。現在、平成 30 年度からの支援自治体を平成 30 年 5 月 31 日（木）まで、を以下のホームページで募集しています。

http://www.mm-education.jp/jititai_sien.html

■MM教育（交通環境学習）にかかわる学校支援制度について

エコモ財団は、モビリティ・マネジメント教育実施校の拡大と新たな教材事例の増加を図ることを目的として学校支援を実施しています。現在、平成 30 年度分の支援校を平成 30 年 6 月 16 日（土）まで、以下のホームページで募集しています。

http://www.mm-education.jp/gakkou_sien.html

■群馬県バス協会、県内全高校生の新入生などに「エコ通学のススメ」配布

群馬県バス協会は県内全高校生の新入生および保護者を対象に、リーフレット「エコ通勤のススメ」を配布した。平成 23 年度から続けている。

<http://www.busnet-gunma.jp/ic-news/detail/886/>

■成城大学、小田急成城クーポンブックの製作に協力

成城大学は、小田急電鉄が発行する「小田急線世田谷区グルメ・スイーツスペシャル小田急成城クーポンブック」の製作に参加した。

<https://www.u-presscenter.jp/2018/02/post-38880.html>

■大阪山陽タクシーと神戸女子大学、コラボメニューを開発

大阪山陽タクシーは、同社が運営する珈琲駅サンロード（JR 明石駅改札口前）向けの新メニューを、神戸女子大学 4 回生と共同で開発。

<https://www.sanyo-railway.co.jp/media/1509599581.pdf>

■泉北高速鉄道、沿線大学 3 項と協力しラッピング電車を運行

大阪府の泉北高速鉄道は 2 月 13 日から、沿線にキャンパスを有する桃山学院大学、桃山学院教育大学、プール学院短期大学と合同でラッピングした電車の運行を開始した。各校のスクールカラー、ロゴなどをデザインした。運行区間は泉北高速鉄道線（中百舌鳥～和泉中央間）、南海電鉄高野線（難波～中百舌鳥間）。

<http://www.poole.ac.jp/admission/topics/2018/02/post-5.html>

4. イベント、フォーラム、セミナー等の開催内容

●レールバスとあそぼう

日時：(1 日目) 平成30年5月4日(金) 9:00~16:00

(2 日目) 平成30年5月5日(土) 9:00~16:00

場所：南部縦貫鉄道旧七戸駅

主催：一般社団法人南部縦貫レールバス愛好会、七戸町

<http://www.ogaemon.com/r-bus/2018iv.htm>

●阪急お客様感謝 Day

日時：平成30年5月27日(日)

場所：阪急阪神エムテック本社広場

主催：阪急バス、阪急阪神エムテック、阪急観光バス、阪急田園バス、
大阪空港交通

<https://www.tetsudo.com/event/20360/>

●エコライフ・フェア2018

日時：平成30年6月2日(土)、3日(日)

場所：代々木公園 ケヤキ並木(NHKホール前)/イベント広場

主催：環境省

共催：渋谷区(予定)

<http://ecolifefair.env.go.jp/>

●第13回日本モビリティ・マネジメント会議

日時：平成30年7月28日(金)・29日(土)

場所：愛知県豊田市 名鉄豊田ホテル

主催：(一社)日本モビリティ・マネジメント会議

<https://www.jcomm.or.jp/convention/>

●第10回土木と学校教育フォーラム

日時：平成30年7月29日(日)

場所：土木学会講堂

主催：公益社団法人土木学会

土木計画学研究委員会「交通まちづくりの実践」研究小委員会

<http://committees.jsce.or.jp/education04/>

